

藤木省三先生ご逝去

丸山和久

大阪・関西万博が閉幕まで1ヵ月を切り、連休中の来場者数が話題になっていた9月16日、藤木省三さんが逝去されました。1998年に発足した日本ヘルスケア歯科研究会の会長として、また2011年本学会設立後は副代表として、まさに名実ともに本学会を牽引してこられました。あらためて心より哀悼の意を表しますとともにご冥福をお祈り申し上げます。

藤木臨床の集大成であり、ヘルスケア診療のバイブルとも言える『ホームデンティストプロフェッショナル』シリーズは2017年の第1巻から始まりました。全5巻がすべて刊行される少し前、ちょうどコロナ禍の最中に胃がんがわかり全摘手術を受けられました。幸い転移がなくてよかったということで、大西歯科で院長として、歯科医師として大好きな臨床への情熱は以前と変わらぬ様子で、メールの返信は相変わらず早く、コロナ禍の産物とも言えるWebでお姿を拜見している限りは、もうすっかり回復されたようにお見受けしました。そうすると我々は放っておきません。いくつもの相談ごとを持ち込みますし、兵庫ヘルスなど近くのイベントへはご参加いただけるようになりました。ここ2年ほどは「大西歯科で行われている、あのSRPのやり方」と呼んでいたものに「UP-SRP」という名前がつき、専用チップ開発を含めてその普及に力を入れておられました。ただ実際にお会いすると、だんだん痩せて小さくなっておいででした。2024年のヘルスケアミーティングでは東京の会場で久しぶりにお目にかかった会員も多かったことでしょう。

今年5月の連休明けにがんとは直接関係ない手術を受けることになり、その際に腹膜転移がわかりました。治療も長期戦になることが予想され、院長不在の大西歯科を周辺のメンバーでバックアップする体制を整えました。諦めることなくご病気と向き合いながら、ご自身のことやお二人の娘さん一家含めたご家族のことが最優先だったでしょうが、大西歯科のことでは医院経営・存続というよりは患者さんのこと、そして藤木さんを慕うこれからの若い歯科医師、会員に向けたメッセージをさまざまな方法で伝えることにそれは懸命でおられました。そのうちの一つが今年のニュースレターno.3, no.4で前後編の記事になっていますのでご覧ください。また今後のニュースレターや歯科雑誌で直接、間接的に語りかけてくれるはずです。

さてちょうどこの巻頭の原稿締切りが気になり始めたころ、日本野球機構からその功績をたたえ、長嶋茂雄賞新設のニュースが流れてきました。現役時代の長嶋さんを知らない人は多いでしょうが、「ミスター（ジャイアンツ、プロ野球）」として引退後、ご病気後、亡くなってからもずっと多くの人に慕われているのはご存知の通りです。ファンはそのプレーや言動に魅了され、野球界の人たちは同時代に野球ができたことや直接指導を受け、言葉を交わし、関わった幸運を語っています。藤木さんも一時期よく「ミスター」と呼ばれていました。まさにミスターヘルスケア、その存在は野球界の長嶋さんと同じです。多くの患者さんが実際に藤木さんに感謝していることは、大西歯科に直接関わることで私自身実感しています。また私たち会員は書籍だけでなくリアルに講演を聴き、また温厚なお人柄に触れてさまざまな教えや激励を受けたことは本当にありがたく、幸運だったと感じています。残念ながら、もう直接感謝をお伝えすることはできませんが、それぞれが各地域でヘルスケア診療を続け、結果を出し、それを（できればウィステリアを使って）まとめて、発信して、また次の世代に繋ぎ、「う蝕、歯周病は過去の病気」と言える世の中に近づけるべく、皆で進んでいきましょう。それこそが恩返しであり、藤木さんが守り育てた日本ヘルスケア歯科学会の活動そのものなのですから。

さて今年最後のニュースレター、ヘルスケアミーティングの開催報告や感想が並んでいます。「歯周基本治療」をテーマに2年連続開催しました。いかがだったでしょうか。来年は小児歯科、小児期のヘルスケアに焦点を当てます。会場は同じ一橋講堂で開催日は少し遅くなって11月後半の連休になります。心づもりをお願いします。そしてよい年をお迎えください。